

令和元年度病害虫発生予察 病害虫防除技術情報 第7号

令和元年 12月 27日

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

イチゴにおける灰色かび病の防除について

12月に入ってから灰色かび病が多く発生しています（図1）。葉先枯れなどの症状も多く見られており、向こう1ヶ月の気象予報によれば本病の発生に好適な多湿条件となることが予想され、本病の発生が増加すると予想されます。定期防除を行い予防に努めてください。

1. 発生の状況（12月中旬巡回調査）

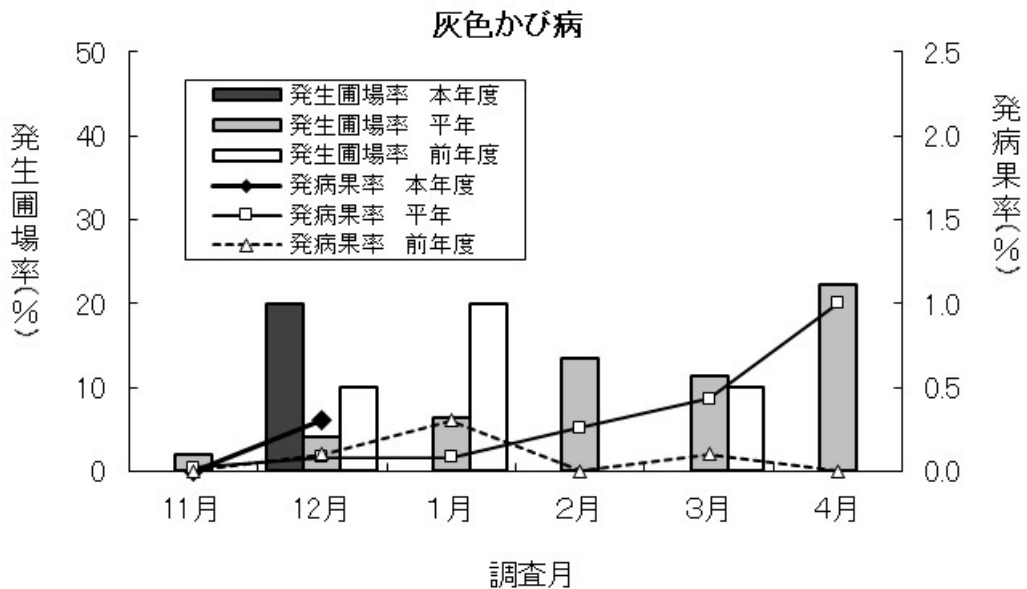


図1 県内イチゴにおける灰色かび病の発生状況

2. 防除上注意すべき事項

- (1) ハウス内の菌密度が高いほど発病しやすくなるので、発病果や発病葉は見つけ次第ハウス外に持ち出し焼却、土中に埋める等の処分を行って胞子の飛散を抑える。

- (2) 多湿条件で発病が助長されるので換気等を行いハウス内の過湿防止に努める。
- (3) 曇雨天時は水和剤等の使用を控え、くん煙剤等を使用する。
- (4) 同一系統薬剤を連続使用すると、薬剤耐性菌を生じやすいので、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。
- (5) 薬剤感受性検定の結果、アゾキシストロビン剤は耐性菌率が高いので使用を控える。
- (6) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」（<http://www.jppn.ne.jp/oita/>）の「いちご」「野菜類」の項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに従って使用する。



(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita/>)